

Weekly Market Report

Oct 10, 2017

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

政局の不透明感から上値を追い難い展開か。米物価関連指標に注目。

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は好調な米経済指標と米金融当局者の発言でドル買いが進む場面も見られたが、113円台では上値が重い展開となった。2日はISM製造業景況指数が高水準となり113円台を試すも、日本の衆院選への不透明感による円買いと英欧政治情勢を睨んでのリスク回避により上値を抑えられた。3日の東京時間には113円台に乗せるも、NY時間にムニューシ米財務長官が次期FRB議長にパウエル氏を支持と伝わり112円台後半へ押し戻された。4日はISM非製造業景況指数の強い結果を受け112円前半から112円台後半まで上昇。5日は良好な経済指標が相次ぎ、SF連銀総裁のタカな発言もあり113円手前まで上昇。6日は米雇用統計で平均時給が予想を上回り週間高値113.44円まで上昇するも、その後北朝鮮がミサイル発射実験の準備をしているとの報道等もあり112.60近辺まで急落して越週。

今週は米物価関連指標の発表が相次ぐ。先月はCPIの強い結果がドル高をもたらした今度も期待されるが、日本の衆院選、米国FRB人事動向の不透明感もあり上値は重い展開か。

(市場商品部/岩立)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
10/11(木)	(米) FOMC議事録	-
10/12(木)	(米) 生産者物価指数	0.2%
10/13(金)	(米) 小売売上高	1.6%
10/13(金)	(米) 消費者物価指数	1.8%
10/13(金)	(米) ミシガン大消費者信頼感指数	95.0

USD/JPY (2年間)



今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
國井靖子	111.00 - 113.50	米経済指標が上振れても利上げ織り込み済みのため上値は限定的。北朝鮮や欧州などの地政学リスクに警戒。
川合隆行	111.00 - 114.00	好調な米経済指標を踏まえ追加利上げ期待が高まっているが、北朝鮮の地政学リスクも消えておらず上値は重く推移。

2. 円金利相場概況

10年入札は軟調も、日銀の買い入れオペがサポートし、円金利は低下基調で推移

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



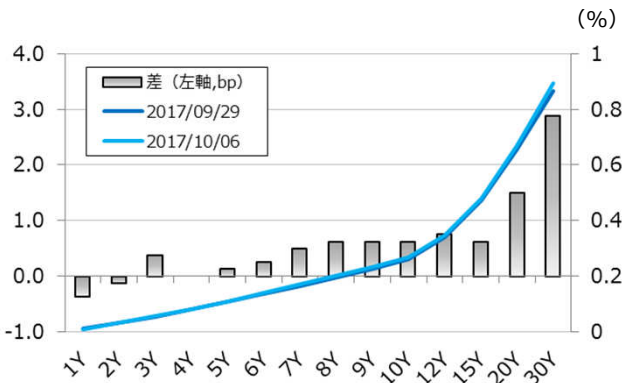
(出所) Bloomberg

コメント

週初は米金利の上昇に加え10年国債入札を控えて円金利も軟調なスタートとなりました。10年債入札は弱めの結果となりましたが、週内に2度の日銀オペが予定されていたこともあり、円債市場は入札結果発表後に一度下げましたが、引けにかけて買い戻しが入りました。入札翌日に実施された中期・長期のオペは堅調な結果となり、相場の上昇をサポートしましたが、週末に実施された長期・超長期のオペは超長期オペが軟調な結果となり、相場の下落につながりました。今週は火曜日に30年入札、金曜日には長期ゾーンに流動性供給入札が予定されています。供給が続く中で、北朝鮮が再びミサイルを発射する可能性が危惧されていることなど、強弱入り混じる材料が存在し、やや方向感を欠く展開となりそう。

(市場商品部/中野)

金利スワップ変化（1週間）



5年円金利スワップ推移（2年間）



今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
後藤賢太郎	0.04% - 0.07%	需給環境が変わらない中で衆院選や財政悪化懸念による金利上昇余地は僅少、海外金利次第の展開が継続。
伊豆浦有里恵	0.03% - 0.08%	衆院選を巡る影響は限定的。円債市場は米国の金融政策をうかがう神経質な相場展開となるか。

3. 今週のトピックス

IMMポジション（投機筋）から見る為替相場見通し

米ドル買戻し優勢の展開。次期FRB議長人事に注目

IMMポジションとは

IMMポジションとは、米商品先物取引委員会（CFTC）が通貨毎の建玉明細を集計し、当該週の金曜日の取引終了後にHP上で公表しているものである。建玉明細の大口玉は報告義務があり、投機筋と商業玉に分かれ、市場は特に投機筋の建玉明細に注目する。

<ポイント>

ネットポジションがロングかショートかニュートラルかにより、投機筋の相場観が強気か弱気かニュートラルか推測できる。

直近の円、ユーロのポジション動向

米ドル円ポジションは、北朝鮮問題への懸念から積み上がった円ショートポジションを縮小する動きが見られたが、9月FOMCにてバランスシート縮小を決定し、年内利上げの可能性を残されたことから、足元では再び円ショートにポジションを傾ける動きが見られる。米ドル円相場は一時107円台まで下落する場面も見られたが、その後は112円台まで回復している（図1）。

ユーロ米ドルポジションは、仏大統領選以降ユーロロングへと転じ、ドラギECB総裁のテーパリングを示唆する発言を受けて、独国債利回りが急上昇。10月ECBにおいてテーパリング開始決定が予想されている。ユーロ米ドル相場は一時1.2台まで上昇したものの、その後は米ドル買戻しが優勢となり、足元では1.17台で推移している（図2）。

米ドルインデックスは米大統領選以降、節目となる100台乗せを示現した後、ユーロ買いに押されて一時91台まで下落。足元では米ドル買戻し優勢となり、93台で推移している（図3）。

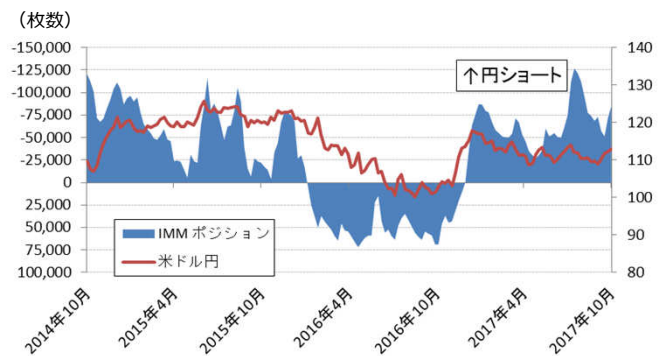
次期FRB議長人事に注目

先週末に公表された米雇用統計では平均時給が大幅に上昇したことから、米金利に上昇圧力が掛かっており、2年米国債利回りはリーマンショック後の2008年以來となる1.5%台まで上昇している。一方、米ドル円相場は北朝鮮問題が上値の重しとなっており、112円台を中心としたレンジ相場を継続している。

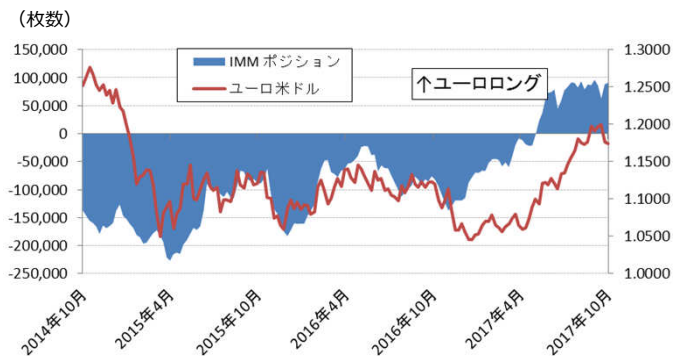
市場は「きっかけ待ち」の状況にあるが、そのひとつが次期FRB議長人事だろう。来年2月にイエレンFRB議長の任期満了となることから、次期FRB議長が誰になるのかに注目が集まっている。数週間中に決定される見通しであるが、候補として挙がっているのは、イエレン議長（再任）、パウエルFRB理事、コーンNEC委員長、ウォッシュ元FRB理事、テラー元財務次官。タカ派と目されるウォッシュ氏、テラー氏が就任決定となれば、米ドル円相場が上昇するきっかけとなるだろう。

（市場営業部/浅川）

【図1】米ドル円（過去3年間）



【図2】ユーロ米ドル（過去3年間）



【図3】米ドルインデックス（過去3年間）



（出所 CFTC, Bloomberg）

ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会